

はじめに



学力調査が行われ、その回答から思考力・判断力・表現力の育成が常に問われます。上位秋田県のその因として言われるのは、

- ① 児童・生徒の主体性を重視する学校や教師の姿がある。
- ② 自分の思いや考えを書いたり、交換したりする授業がなされている。
- ③ 放課後・長期休業に補充的な学習、個に応じた指導が積極的に行われ底上げをしている。

等々の理由が言われています。

学校教育において育てようとする子どもの姿にどのように向き合うか、教師の真剣さ(意欲)が根幹になり、我々の日常においてはその要となる校内研究の成果に繋ぐものと思うのです。

平成23年度、本校は、『感じたこと・考えたことを自信を持って伝え合う子どもの育成』を求め、サブテーマを「～質の高い言語活動を通して～」として学校図書館の有効な活用方法に機能を発揮させる授業を取り入れ、子どもに確かな学力向上を図り、

研究仮説を

- ① ねらいを明確にした質の高い言語活動を取り入れていけば思考力、判断力、表現力を伸ばすことができる。
- ② 自信を持って伝え合うことにより自分の考えを深め、さらに集団の考えを発展させることができる。

とし、日々授業改善に力を注いでまいりました。

研究会を重ねる度にその授業展開には私たちに学びと出会いがありました。

入門期一年生には、発言や発表の仕方はもちろん、多彩な発言を誘発する練られた発問・学びのよさに気づかせる言語活動、そして考える時間の保証。また、五年生の図書館資料の活用において並行読書を取り入れた授業では学び手の実態とモチベーションを勘案し、その与え方を工夫することが比べ読みを支えることになり指導的リメイクは図書館資料を活用できる子どもを育てる過程での支援の手立てである。伝え合う必然性は言語活動が活性化され学習目標の達成に繋がるなど、実践を通してその成果と深まる課題に繋がっていきました。

指導するとは、分かることと分かっていないことをはっきりさせ分かっていないことを明確にして子どもが発表できるようにすること。多様な学びを体得させることで分からないことをわかるようにすること。学習意欲を(特に導入を大切に)引き出すこと、分からないことがわかるようになることと学習意欲が出てくると言うことではないでしょうか。

子ども一人ひとりが将来にわたり豊かに人生を生きる基礎となる「確かな学力」を伸ばし、その持てる可能性を開いていくことが何より大切です。

いつどんな時も子ども一人ひとりに向き合い、子どもが「学ぶこと」から「しっかりと生きること」の重要性を感じていけるよう今後も研究を重ね努力しなければならないことを切に思います。

本校の「研究のあゆみ」は遅々たるものです。が、私たち教職員の確かな「あゆみ」です。手に取っていただきました皆様方お一人おひとりに感謝申し上げるとともに今後におきましてもご指導いただければ何よりの幸せにございます。



平成24年(2012年)3月
菩提寺北小学校長 平地 幸美